

明德地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成28年8月19日(金) 19:00~20:20

2 会 場 明德地区公民館

3 出席者 地元出席者 21名
市側出席者 15名

深澤市長、羽場副市長、小林庁舎整備局長、高橋防災調整監、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、綱田都市整備部長、澤田環境下水道部長、中島総務部次長、渡邊秘書課長

<事務局>福島協働推進課長(司会)、岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局長) ※チラシに基づき説明

5 第10次総合計画についての説明

(企画推進部長) ※チラシに基づき説明

6 地域の重要課題について

1 明德地区公民館の新築について

<地域課題>

次の理由により、明德地区公民館の新築を要望する。

ア) 避難所にも指定されているが、増改築を繰り返していることもあり、耐震面で構造的に不安。

イ) 当地区も高齢者化率30%を超えており、このため公民館を利用されている高齢者の方が2階への昇り降りが困難となっている。

ウ) 部屋数が少ない。

エ) 文部科学省の定める基準330㎡の要件を満たしていない。

<担当部局の所見等>

【地域振興局】

現在本市が取り組んでいる地区公民館の改修は、耐震性に問題のある建物を緊急の課題として順次整備を行っているもので、明德地区公民館は、新耐震基準に基づき平成3年度に建築されていることから、耐震改修は必要ありません。

この耐震改修計画は平成31年度完了を目途に進めており、完了した後は、引き続き建物の建築年や老朽度を見極めながら、また、現在本市が取り組んでいる「公共施設の再配置基本計画」も踏まえて、地区公民館全体の更新計画を作成していきたいと考えています。

明德地区公民館は平成27年度にトイレ男女別化及び多目的トイレの新設により利用改善を図ったところであり、当面は現状の設備での活用をお願いします。

(地域振興局長)

明德地区公民館は延床面積が248.65㎡と狭く、新築のご要望をいただいたものと思います。

現在、鳥取市には62の地区公民館があります。地区公民館の改修については、耐震性に問題のある建物を緊急の課題として順次整備を行っているところです。明德地区公民館は平成3年築で、新耐震基準に基づいて建設されていますので、耐震改修の必要はありません。

耐震改修は、平成31年度までに完了する予定で進めています。全体の改修が完了したら、引き続きそれぞれの建物の建築年や老朽度を見極めながら、併せて本市が取り組んでいる「公共施設の再配置基本計画」も踏まえ、地区公民館全体の更新計画を作成していきたいと考えています。

明德地区公民館はこれまでに3回増築しており、平成27年度にはトイレの男女別化及び多目的トイレの新設により利用改善を図ったところです。当面は、現状の設備でご活用いただきたいと思います。

(地元意見)

回答の内容は十分分かります。明德地区公民館は元々非常に狭く、建物の前部分を増築したり、他にもいろいろしていただいて現在の状況にありますが、それでもやはり狭いです。また、1階に会議室が1つしかなく、会合を開くにも会場がないことがあります。

隣の給食センターの半分程度まで広げてもよいと思うので、何とかもっと大きな地区公民館にならないかというのが真意です。

先日もトイレが新しくなり本当に良いトイレになったのですが、少しずつの改修ばかりなので、何とか考えてもらえないものかと思っています。

(深澤市長)

鳥取市では、市内の地区公民館の標準的な延床面積を450㎡としています。それと比較すると明德地区公民館は狭く、大変なご不便をおかけしていることに、まずもってお詫び申し上げます。建設年次が比較的新しく耐震性は十分確保されていますので、新築はなかなか難しいですが、時が経過すれば、やがて新築が必要となる時期がやってきます。その折には建設位置の問題も含めて検討し、標準的な450㎡の地区公民館を建設していくことになると思います。

近くには新本庁舎が移転してきます。新庁舎の南側には市民交流スペースを作る予定としますので、新しい地区公民館ができるまでの間は、大人数でお集まりになられるような場合などに市民交流スペースをご活用いただくのも1つの方策かと思っています。

現在の地区公民館の面積が248㎡で標準と比較して狭く、新しい地区公民館が建設されるまでの間は何か別の方策を考えていく必要があるかと思っています。

本日、地区公民館に到着してから懇談会の開始前に建物の周囲を1周して確認しましたが、増築というのも少し難しいと感じました。基本的には、何とか今の状況でご使用いただくこととなりますので、よろしくお願ひします。

(地元意見)

地区公民館が新築されない間は、高齢者も含め、住民は2階のこの部屋しか使えません。エレベーターを設置することはできませんか。

(深澤市長)

先ほども申し上げましたが、延床面積が248㎡と非常に狭い中ですので、エレベーターのスペースを確保すると、有効に活用できるスペースもその分狭くなり、現実的ではないかなと思います。建物の外側に設置するという方法もあるかと思いますが、周囲を見ると、そういったスペースの確保もなかなか難しいと思います。残念ながら良い回答がさせていただけませんが、ご理解ください。

2 新庁舎建設について

<地域課題>

新庁舎建設について

ア) 棒鼻町内における道路整備について

- ・どのような道路整備がされるのか。
- ・そのことによって通学路の変更が生じるのか。

イ) 明德地区内の交通アクセスがどう変わってくるのか。

- ・新庁舎が設置されることにより、今まで以上の交通量が増加となるが、どのような環境変化が生じるのか。

<担当部局の所見等>

【都市整備部】

ア)について

新庁舎の一般車両駐車場の出入口は、敷地南側の市道天神町4号線沿いに計画しています。

この市道天神町4号線が新庁舎アクセスへの主動線となることから、国道側への右折レーンの設置と交差点改良、側溝整備及び舗装改良等を実施する計画としています。

公用車駐車場の出入口は、新庁舎北側の市道扇幸町1号線沿いに計画しています。

市道扇幸町1号線については、今後新庁舎敷地内に整備する歩行者通路工事と合わせて庁舎敷地沿いの側溝改良を実施する計画としています。なお、平成27年の通学路安全点検に基づき、今年の8月に外側線(白い線)を施工し、車道と路肩の明確化を図りました。

イ)について

自家用車を利用する来庁者によるピーク時の交通量増加は、出入りを合わせて1時間あたり最大400台程度で、主として国道53号側からの出入りするものと予測しています。

現在の交通量に増加分を加えた交通量を基に検証を行い、周辺の主要交差点においては、交通の流れに問題はみられないとの結果を得ていますが、新庁舎整備後の交通状況を継続して確認し、必要な対応を取ってまいります。

(都市整備部長)

市役所新庁舎は、一般来庁者用駐車場を200台分設置する計画です。この一般来庁者用駐車場は、新庁舎南側の市道天神町4号線からの出入りとする計画です。そして、公用車駐車場は、出入りの混雑を避ける目的で、新庁舎北側の市道扇幸町1号線からの出入りのみとする計画です。

市道天神町4号線が一般来庁自動車の主動線になると考えていますので、市道天神町4号線から国道53号線に右折して出る自動車のために、市道天神町4号線に右折専用レーンを一部設置し、交差点の改良を実施します。併せて、現道にある側溝等も新たに整備し直す予定としていますし、舗装なども新しく整備していく予定です。

新庁舎敷地内の北側に歩行者通路を設置する計画となっていますが、市道扇幸町1号線には一部側溝が未整備の区間がありますので、歩行者通路工事に合わせて側溝整備を行う予定にしています。

通学路への影響については、新庁舎南側の市道天神町4号線を自動車の主動線と想定していますので、現時点では、北側にあるマンションや住宅地から小学校への通学ルートに大きな影響はないと考えています。なお、市道扇幸町1号線など3路線については、8月1日に、片側に外側線を施工し、自動車と歩行者の動線を明確にする安全対策を取っています。

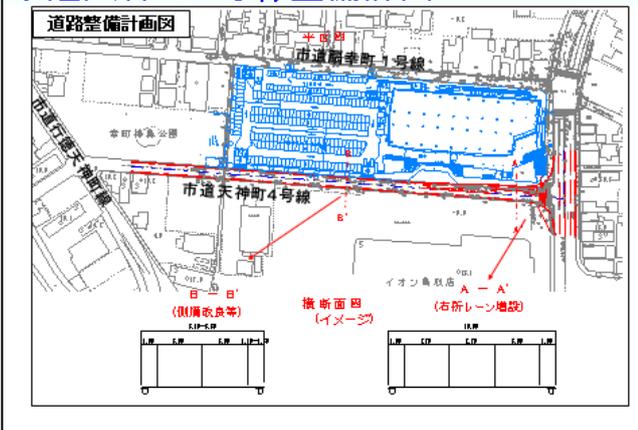
新庁舎が建設されることに伴う交通量の影響については、庁舎整備に関する基礎調査を実施しており、午前10時台が来庁者のピークであると想定しています。台数は、入庫する自動車と出庫する自動車を合わせて延べ400台という想定です。交通量の変化については様々な指標を使用して想定していますが、国道53号線側からの出入りが多くを占めるというシミュレーション結果となっています。このような増加後の交通量を踏まえ、国道53号線の道路管理者である国土交通省及び交通管理者である公安委員会等々と、国道あるいは県道等の主要な交差点にどの程度の自動車を処理できる能力があるのか解析したり、自動車が実際にどう走行し、その時に各交差点でどの程度の自動車が滞留するのかといったパソコン上のシミュレーションによる検証も行っています。

こういった検証により、シミュレーション上は、混雑などの問題にはつながらないという検証結果を得たところです。ただ、あくまでもシミュレーションですので、新庁舎が整

新庁舎周辺の道路整備について



市道天神町4号線整備計画



備された後、実際の交通状況を継続して確認しつつ、必要な安全対策に取り組みたいと考えています。

(地元意見)

市道天神町4号線から国道53号線への右折専用レーンを作るとのことですが、この市道は、普段でも、特に休日はイオンの利用者で込み合うことがあります。ここに、さらに400台の自動車が入り出すとなると、かなり混雑すると思います。

(都市整備部長)

国土交通省では定期的に、「どの路線にどの程度の交通量があるか」、「そこを走行している自動車がどこからどこに向かっているのか」などの交通の調査をされています。先ほど説明したシミュレーションでは、国の交通調査結果に今後増加すると見込まれる交通量を加え、交差点の信号が変わるサイクルなども条件として追加し、パソコン上で、実際自動車がどう連なるのか、それぞれの自動車がどういう動きをするのかということをシミュレートしています。その結果では、大きな渋滞につながるという結果は出ていません。とは言いながら、それはあくまでもシミュレーション上の話です。実際は、新庁舎が完成し、実際の交通量を継続して確認し、ハード面、ソフト面で必要な安全対策に取り組みたいと考えています。例えばソフト面では、自動車の走行速度を落とさせるような工夫をしたり、地元の皆様や公安委員会等々と協議することが前提となりますが、交通規制を検討するなどの対応を練っていきたいと考えています。

(地元意見)

国道53号線の北方面から来た自動車が市道天神町4号線に入る場合は、右折で入れるのでしょうか。

(都市整備部長)

現在、国道53号線のこの区域は片側2車線の4車線になっており右折レーンはありませんが、交通シミュレーション等々の結果によると、近くに大きな交差点があるため、国道53号線に右折レーンを設置することで、逆にかなりの滞留ができることも考えられるとのこと。右折レーンを設置することまでは必要ないだろうというのが、国土交通省及び公安委員会との協議での現時点での方向性となっていますが、公安委員会からは、実際の交通の流れを見て、その時点で支障があれば信号機が必要かどうかといったことなども含め検討していくとお伺いしています。

3 側溝の整備について

<地域課題>

別紙箇所の側溝は狐川と接触しているが、当該側溝の敷きが高いために狐川の水が逆流していて、常に水が澱んでいる。

<担当部局の所見等>

【環境下水道部、都市整備部】

側溝の水の流れは狐川との合流部から西側（千代川方向）への流れとなっています。

狐川の水位が上昇した時、側溝へ流れた水は側溝流末部に土砂が堆積しているため、滞水が起きています。

8月中に側溝流末部の浚渫及び勾配修正をおこない滞水を解消するとともに、狐川の水位の上昇を抑えるため、現在週1回行っている直近のスクリーンの巡回・ゴミの撤去を、必要に応じて清掃回数を増やすなど良好な環境となるよう努めたいと考えています。

（都市整備部長）

この側溝は、わずかな区間は狐川に流れ、途中からは西側に流れる勾配になっています。ご要望を受けて現状を確認したところ、西側10mほどの区間に土が溜まり滞水が起きていましたので、応急的な処置として浚渫を行いました。

浚渫した区間は下にコンクリートもないような状態でしたので、今後、西側の円滑な流れを確保するため、コンクリート製水路の敷設や、既設部分にも敷き勾配が弛んだ状態になっている箇所があり

水が溜まる可能性がありますので、それらの箇所の敷きの調整など、浚渫に引き続いて実施していきたいと考えています。

また、現地確認の中で、近隣の高架下の市道をまたがっている横断溝が、歩道部分で急に下がっている箇所がありました。これも、横断溝と同じような高さに改良し、歩道の通行が円滑にできるよう整備していきたいと計画しているところです。準備にはもうしばらくかかりますが、今しばらくお待ちいただければと思います。

（地元意見）

この側溝の水は、最終的に千代川に流れているのですか。

（都市整備部長）

この側溝の先には雨水管が入っており、雨水管を経由して幸町のポンプ施設に流れ込む仕組みになっています。狐川が溢れるような大雨の時には、その水の一部をこの雨水管からポンプ施設に流すことによって、浸水しやすい区域への影響を少なくしようとしているものです。

（地元意見）

合流部では、暗渠の土管の中に水が入るようになっていきます。トミタ電機の横は草も生えていて環境が悪いように感じますが、この辺りを暗渠にすることはできないのでしょうか。



それから、城北地区周辺で水が淀んで悪臭がするとのことで、狐川を美しくする会では、以前から何とかもっと水を流そうという取り組みをしていますが、結局、トミタ電機の横だけが川ではなく側溝になっています。

(地元意見)

幸町の樋門から合流部スクリーンまでの間の水路が狭いです。

(環境下水道部長)

狐川は、下流部の水質浄化対策として、毎秒0.05 m³の通年通水を行っています。通水量を増やすと雨の時に溢れてしまうということがあり、現時点で最大限通水できるのは0.05 m³と判断して通水しています。

(地元意見)

結局は、トミタ電機の横の部分のためだけに水量を制限されているということになるのではないですか。ここをもっと流せるようにすれば、狐川も綺麗になるのではないかと私は思います。

(環境下水道部長)

狐川の浄化の面で考えれば、たしかにここを大きくして下流に流れる水量を増やした方がよいとは思いますが、浸水整備として考えると現在の大きさが十分に雨水排水はできますので、現時点では大きくする計画にはなっていない状況です。

(地元意見)

ここの辺りだけが草が生えていて非常に環境が悪いので、そこを改良すればもっと水も流せるのではないですか。

(環境下水道部長)

そのあたりのご意見については検討したいと思いますが、下流のこともあります。あまり量を考えずに通水して浸水するということが起きないように考えなければいけません。

(担当課補足：下水道企画課)

狐川の水質浄化対策にあたっては、流域内の関係行政機関(国・県・市)、学識経験者、地元自治会等で構成する「狐川水質浄化対策検討会」を開催し、水質浄化に向けた検討を行っているところです。

この検討会において国・県・市が共同して、環境用水の増水(2日間程度)を含めた、各種実証試験を行うようにしています。今後、これらの実証試験の効果を検証し、対策の検討を行う予定としています。

7 市政の課題等についての意見交換(フリートーク)

(地元意見)

地区公民館のトイレ改修は、本当に地区の皆が喜んでいます。ありがとうございました。

地域課題の回答で「地区公民館の新築はできない」とのことでしたが、高齢者が2階に上がる時は手すりにつかまってやっと上がってきて、一度座ると立ち上がれません。私も腰が悪く、会合の時には足を伸ばして座っている状況です。

2階のこの部屋をフローリングにして、机と椅子を設置できるようにしてもらえないでしょうか。

(深澤市長)

最近では、大広間は畳よりも椅子と机を選択される場合が多くなってきています。

確かに、ご高齢の方にとっては座ったり立ったりされることが非常に困難になられる場合が多いと思いますので、畳のままでも椅子や机等が使用できる形に変えていくことも検討したいと思います。

(担当課補足：協働推進課)

地区公民館の改修に係る「長期事業計画」の中で、平成30年度に2階会議室の床改修を計画しているところです。

(地元意見)

町内会長をしています。私の町内会の予算の中で一番大きい支出は、防犯灯の電気代です。私の町内会は大きく、64基の防犯灯がありますので、電気代が町内会運営の足かせになっています。商店街などが負担してくれればよいのですが、私の町内会には商店街もありません。

町内会が負担している防犯灯の電気代について、何かしら助成制度を考えてもらえないでしょうか。

(担当課補足：協働推進課)

防犯灯は、電気代や小修繕に係る経費を町内会が負担することを条件に鳥取市が設置しているものであり、現在のところ電気代に対する助成は困難だと考えています。

貴町内会の防犯灯は現在白熱球のものだと伺っていますが、これをLEDに変更するだけでも電気代は大きく減少するものと考えます。

本市では、防犯灯のLED化を進めており、希望される町内会には2割の町内会負担で工事を行っています。(年間の設置数には制限があります)

詳しくは道路課にお問い合わせください。

(地元意見)

私の町内会では防犯灯のLED化に年次計画で取り組んでいますが、年に3基から5基のという基数の上限があります。予算の関係も当然あると思いますが、上限を何とかもう少し上げてもらえれば、64基あっても5年ほどの短期間で達成できるのではないかと思います。

LED化にすると大きな経済効果が期待できるので、前向きな回答を聞きたいです。

(深澤市長)

前向きな回答がさせていただけるかどうかは分かりませんが、他地区からも同様のご意見をいただいていますので、先般から、少し検討したいと考えているところです。

なかなか一挙には対応できないかもしれませんが、新年度等に向けて検討していきたいと思えます。

(地元意見)

ありがとうございます。市長さんがそう言われたので期待して待っています。よろしくお願いします。

(地元意見)

本日の地域づくり懇談会の冒頭の市の説明の中で、中核市移行を目指すという話がありました。「目指す」という表現から、何か乗り越えるべき障壁があるように受け取りましたが、何かあるのでしょうか。

(深澤市長)

県から鳥取市が保健所業務の移譲を受けるという大きな事務がありますし、県から2,211の事務が鳥取市に移譲され、平成30年4月以降は市が直接事務を行うようになるので、専門職を含めた職員の増員など、事務をこなせるような体制を整えていく必要があります。

中核市移行までには一定の準備期間を必要としますので、「目指す」というのは「平成30年4月を一つの目安にして体制を整えたり、県から順次事務を受けるような手続き等々を進めていく」という意味です。平成30年4月の移行に向け、今年度から、県から職員に来ていただいたり、鳥取市から県に職員を派遣したりしているところです。

(地元意見)

鳥取市の人口は20万人を下回っており、なおかつ減少傾向にあるようですが、中核市は人口が20万人以上であることが移行の要件になるとのことで、どう考えればよいですか。

(深澤市長)

以前は、人口が30万人以上であることが中核市移行の要件でしたが、昨年度から20万人以上に緩和されました。なおかつ、鳥取市の人口は現在19万人台になっていますが、以前特例市の指定を受けていた市であれば、人口が20万人を下回っていても5年間については中核市に移行できる経過措置があります。

国を挙げて人口減少が進む時代に入ってきました。2008年の日本の人口は1億2,810万人でしたが、ここをピークに急激に減少しようとしています。鳥取市も残念ながら少しずつ人口減少していきたくないと推計されています。これを何とか食い止めていくことが地方創生の大きな取り組みの1つです。

鳥取市は今後、住民サービスの向上や利便性の向上を図り、併せて、山陰東部圏域の中心市としての役割を果たす意味でも経済の活性化や賑わいの創出など、いろいろなことに取り組んでいかなければいけません。中核市移行は、そういったことのために必要な選択だと考えています。これ以上人口が減少して活力がないまちや圏域にならないようにするための一つの方策として、中核市移行の取り組みを行っているところです。国が中核市の人口要件を30万人から20万人に緩和したのは、日本にもっと多くの中核市を作りたいということです。

平成の大合併を経て、今度は1つの市町村だけでなく、経済圏や生活圏を同じくするような圏域が力を合わせ、その圏域が立ち行くように、そして発展していくようにするための取り組みの一つが中核市移行です。

(地元意見)

新庁舎の側溝は、どのように整備する計画ですか。

(都市整備部長)

側溝を整備する際は、そこにどの程度水が流れてくるかといったことなどを基に側溝の深さや幅を決め、調査設計の結果を見て整備していきます。

最近では可変側溝や、敷きの流れを作るためのコンクリート製インバート等の製品を多く使用していますので、そういったことも選択肢の1つと考えています。

(地元意見)

新庁舎が建設される敷地は道路より高いため、現在、雨水が道路に流れています。敷地の雨水を道路に流さないよう、敷地内に水路を作ってほしいです。

(都市整備部長)

新庁舎の敷地内の雨水は、敷地内で集めてから狐川に流す計画になっていますので、道路に降る雨はわずかな量になります。ただ、道路に敷設する側溝そのものは、維持管理の問題もあり標準的な大きさの物になるかもしれません。これから設計を進める場所ですので、具体的な工事の内容も含め、地元の皆様にお知らせしていきたいと思います。

(地元意見)

現在、敷地と道路の高さが約40cmから50cm違います。これだけ高さが違えば、必ず擁壁が伴いますね。

(庁舎整備局長)

新庁舎北側と南側の両側に、道路に接するような形で幅2m程度の歩道的な通路を作る計画にしています。そのため、現在ある敷地と道路の段差はなくなります。

(地元意見)

では、道路の高さまで敷地を下げ、そこが歩道に変わるのですね。そうすると、敷地内

に側溝も必要になりますね。

(庁舎整備局長)

敷地周辺に側溝を設け、そこから狐川に流していくようにしますので、敷地から道路に流れるようなことにはしません。

8 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

長時間にわたり大変活発にご質問、ご意見をいただき、ありがとうございました。

新庁舎も、いよいよ夏に実施設計に入り、1年後には終了しまして、引き続き工事発注となります。その折には、明德地区の皆様にご迷惑をおかけすることになると思いません。工事には2年ほどかかります。その間は工事車両が出入りしますし、騒音等もあるかもしれませんが、格別なご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日、多くの課題をいただきました。なかなか一挙に実施していくことが難しいものもありましたが、できる限り皆様のご要望等に沿えるよう、努力していきたいと思っています。

長時間、この地域づくり懇談会にご参加いただいたこと、またご意見をいただいたことに感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。

本日は本当にありがとうございました。